

# 科学博物館ニュース速報

No.6 April 1, 2013

第6号 2013年4月1日

## 特別展

### 「シルクロードからの贈り物」好評開催中！

現在、科学博物館では、東京農工大学農学府主催、特別展「シルクロードからの贈り物—ウズベキスタンにおける養蚕技術交流—」を開催しています。（3月16日（土）～4月13日（土））国際センター川端准教授から本学が実施しているJICAの事業について展示ができないかとのご相談をいただき、農学府国際技術協力支援室のご協力の下、今回の特別展が実現しました。

今後とも、大学の研究や事業の成果公開發表の場として、博物館をご活用ください。

（科学博物館特任助教・高木愛子）

## 特別展開催に寄せて

### 国際センター 川端良子

科学博物館において、特別展「シルクロードからの贈り物」を開催することができ、とてもうれしく思っております。

ウズベキスタン共和国はシルクロードの中継地として数千年の絹産業の歴史を持っています。しかし、旧ソビエト連邦から独立した後、養蚕業は衰退を続け国際競争力のある生糸・絹織物は生産されていません。一方で、農家収入を補うシルクロードの伝統産業としての養蚕業や製糸業は今日も連綿と引き継がれております。

そこで、本学では、2009年9月からウズベキスタンにおいて、JICA「草の根技術協力事業」を開始しました。そして、日本の養蚕、製糸産業を支えていた本学の世界最高の養蚕・生糸技術の研究成果をウズベキスタンに移転し、農家女性の現金収入の向上と自立化を促し、農村復

興に寄与することを目標に行っています。その中で、ウズベキスタンの伝統的絹織物であるアトラスを広める活動をKANNOTEKILE、本学科学博物館の友の会の方たちと協力して行って参りました。

このたび、プロジェクトの紹介と、日本の協力者の方たちによるアトラス布を使った作品、ウズベキスタンの女性たちによる成果作品の共同展示を行うことになりました。本学のプロジェクトを始め、民族や歴史、文化の異なるウズベキスタン共和国と日本の作品展に興味を持っていただければ幸いです。



## 特別展

### 「科学博物館友の会サークル作品展」

#### 盛況裡に終了！

#### 友の会ひも結びサークル・布村典子

第31回サークル作品展は2月8日から14日の期間、2,120名のお客様をお迎えし盛会の中に終了しました。リニューアルした科学博物館の近代性と古典性の調和した雰囲気の中での作品展を、多くの方々が「明るく華やか」と印象を語っておられました。

各サークルに来られたお客様に共通していたことが、「講習会」やワークショップへの関心でした。観ることから一歩踏み出した、参加への関心と受け止めました。また、嬉しかったのは、近くの高齢者施設の方々が、毎日のように来館され、作品の1つひとつを愛しんで観て居られたことでした。作品の中にご自分の過ぎた時を見出されたのではないのでしょうか。

各サークルの伝統的工芸技能作品の数々は、今の私たちの生活からは離れた

ものですが、少し以前～祖父母や父母の時代～まで生活の中で、手がけ、使ってきた数々です。だからこそ、観る人それぞれに思いが蘇ってくる・・・これはサークル作品展の特徴であり、しかも、12もの日本の伝統的工芸・技能が一同に集まった作品展は大変価値のあるものと思いました。

今後、実演展示室を活用しての「ミニ・ワークショップ」の企画など、新しい器での新しい活動のヒントを頂いた作品展でした。



## 友の会サークル修了式

桜が満開に咲き誇った3月23日（土）、平成24年度科学博物館友の会サークル修了式を挙行了しました。耐震改修工事による一年の休会、引っ越し、新体制への移行など、激動の時期にサークルの中心となり纏めあげた4年生を主とする25名に修了書が、修了後後輩の指導にあたった18名のマネージャーに感謝状が授与されました。

## 輪を閉じる日

### 友の会絹サークル修了・橋口とも子

小さな人生の中で、いくつかのやり残した出来事。経験の端っこを、そのままにしておく、人生の違う場面で同じ事を学ぶ機会がやってくるらしい。アポリジニの考え方だ。

絹研に「補欠」入会した5年前、私の中に、やり残した端っこがあったようだ。繭？真綿？絹糸？何も知りません。でも興味がある。無知識でのスタートは、白い繭幾粒かに触れただけで、欠けていた見つけられるような直感を手のうちに感じた始まりだった。真綿作りは大の苦手。共同作品作りで仲間の足を引っ張らないよう努め、生糸繰糸ではいつも緊張していた。

それでも、日々が流れる。繭との距離は縮まっていったのだ。精練した繭の繭糸のささやかさが好きになり、繰糸しながら薄い繭層の中の蛹を愛おしく思う。5年間、周りの方々に導いていただいてこそ、繭との繋がりを得る事ができた。大きな喜びと感謝でいっぱいである。果たして私は、「経験の輪を閉じる」事ができたようだ。

これからは、和＝輪＝円＝縁＝援。友の会コンセプトを柱に、自分なりの「援」の経験を重ねていきたいと考えている。そしてその経験でも、丸く輪を閉じることができればと、願っている。



特別展「シルクロードからの贈り物」



特別展「友の会サークル作品展」

この展示に注目④

「提造り（丸提げ括）」



今回は「提造り（さげづくり）」または「丸提げ括（まるさげかつ）」と呼ばれる括（かつ）をご紹介します。

括とは、繭から生糸を繰り出し枠に巻き取り、枠から外した「繭（かぜ）」と呼ばれる生糸の束に振（よじ）りの処理を加え、集めて束ねたもののことです。

提造りは、江戸時代から明治時代の初期まで主に群馬県にて製造されていたものです。生糸が日本の輸出品の重要品として大量に生産されるようになると、この提造りは生産効率の低さ、輸送に不適格な形状であったため急速に製造されなくなりました。

括のなかでも非常に珍しい形で、明治時代の初期の製造品と推測されます。現物が残っているのは日本でもこの1点だけの貴重なものです。なお、本学の前身の東京高等蚕糸学校時代の標本室の写真（大正3年撮影）にも、既にこの提造りの展示風景が写っており、当館の中でも古い資料の一つです。

（科学博物館助手・真貝哲夫）



提造り（丸提げ括）

学芸員課程通信③

今年度も、学芸員課程最後の科目である「博物館実習」が無事終了しました。

リニューアルオープン後の博物館での最初の実習であった今年度は、浮世絵資料実物を使った資料の取り扱いや調査方法、収蔵庫や展示室での環境測定、常設展示用のワークシート作りなど、実習を通して新しい博物館をより良くしていくためのプログラムを実施しました。今回は、実習を終えた2名の感想をご紹介します。

学芸員課程全科目を修了し、新たに学芸員資格保持者の仲間入りとなる37名が、本課程を通して得た知識や技術を各々役立ててくれることを願っています。（科学博物館特任助教・高木愛子）

博物館の実情

地域生態システム学科 天野浩美

事前課題の博物館見学では、来館者の立場から展示のわかりやすさや資料の見やすさなどに注目して見て回ると、改善すべきと思われる点が多々見つかり、レポートは批判的な文章になりがちだった。しかし、実習のワークシート作成を通して、その難しさに気づかされた。利

用対象者が何に興味をもつか、どこまで理解できるのかなど、意外に悩んだ。また、利用者にとって魅力的なものにしようとすると、学習効果に疑問が出てくる。娯楽と学習のバランスを考えるのが難しかった。

実習中には、予算不足や人員不足など、博物館経営の厳しい裏事情といったものが折に触れて感じられた。事前課題で見学した博物館でも、最高の状態にはなかなかできない様々な事情を抱えていることを理解した。

そうした中で各館の事情を踏まえ、限られた範囲内で優先順位をつけながら、資料管理、展示、イベント、外部とのやり取りまでを幅広くこなす能力が、学芸員には求められていることが分かった。

理系学芸員が目指す姿

化学システム工学科 小川 歩

今回の実習を通して、自然科学を専門とする私たちのような学芸員は、博物館の活動の中で大きく、①文化財の保存環境整備、②資料に関する科学的分析、③自然科学的な教育普及活動といった分野に積極的にかかわっていかないと感じた。①、②に関してはその館の収蔵品を保管し、後世に伝えていくためには不可欠な事柄である。また、今回行ったワークシートづくりのように歴史・民俗的な価値をもつ展示物に対して理科的な視点を加えることで、より広く、学際的、有機的な学習の場を提供できるはずだ。

小規模な博物館ではこのような活動のための専任の学芸員を置くことは難しい。しかし、学芸員資格を持ち、さらに自然科学の素養を持つ在野の人たちが、ボランティアのような形で手を貸していくことは可能なのではないだろうか。今後、学芸員の資格を職業として活用できないまでも、博物館をよりよくしていく、そのために自分の知識を使えるような方法を模索していきたい。



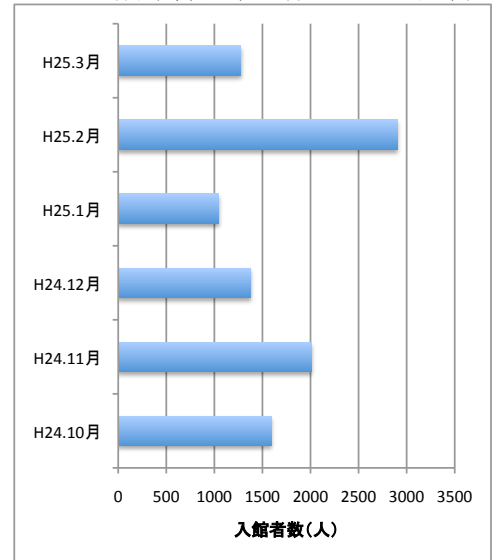
博物館日誌

H25年2月および3月は、企画展及び二つの特別展、博士論文公聴会、最終講義、企業トップセミナーなどのイベントが多数あったこともあり、グラフのようにリニューアル後、二ヶ月間の合計入館者数が4,176名と最大でした。昨年10月から3月までの入館者数累計は、10,201名となりました。この割合で入館者数が伸びれば、年間入館者数は20,000人を超えると考えられます。しかしながら35,000人の目標数にはまだまだ及びませんので、今後も、企画展、ミニ企画展、特別展などを企画していきたいと思えます。

ところで、「教育研究展示室」は各学科1～2研究室が紹介されていたり、学科パンフレットの収まっているスタンドがあり、高校生の団体見学に好評のセッションになっています。また、センター試験終了後、前期、後期の個別試験願書締切10日前当たりから、受験生と親御さんが見学に来館することが多くなっています。

そんな時期のある午後、中年の男性が入館してから2時間以上経っても退館された気配もないので、心配になって館内点検をしたところ、「教育研究展示室」の学科紹介ブースで丹念に学科紹介文を読んでいる姿を発見しました。「受験生がおられるんですか？」と尋ねると、「そうなんです。」との答えが返ってきました。自分の子はどこの学科が向いているのか、展示ポスターの行間を探りながら、一生懸命吟味している親御さんの姿がそこにありました。その情景は子の将来を案ずる親の愛情と共に、この博物館はただの博物館ではなく、「大学」の博物館ということ、強く感じさせられた一場面でした。

（科学博物館事務室・北川和幸）



《博物館活動カレンダー》



- ★特別展開催中！  
「シルクロードからの贈り物—ウズベキスタンにおける養蚕技術交流—」  
会期：3月16日～4月13日
- ★特別展ワークショップ  
「アトラス貝がらストラップ作り」  
会期：4月3日、10日 13:30～15:30  
会場：特別展会場内
- ★H25年度第1回企画展  
「光の実力展（仮）」  
会期：6月1日～9月28日（予定）
- ★子供科学教室  
6月22日「カイコの繭から糸を繰ってみよう！」  
7月6日「博物館で撮影会！」
- ★繊維技術研究会講演会  
場所・時間：講堂、午前10時～12時  
4月16日「製糸界の元勳といわれた速水堅曹の生涯」  
5月21日「エアジェット織機開発の100年間をたどる（仮）」
- ★友の会サークル講習会  
6月26日 組みひもサークル  
7月5日 藍染サークル

「科学博物館ニュース速報」第6号

- ◆発行日 2013年4月1日
- ◆編集 科学博物館ニュース編集委員会  
梅田倫弘・高木愛子・真貝哲夫
- ◆発行 東京農工大学科学博物館